

平成31年度 入学試験結果 (平成31年2月13日時点)

Table with columns: 学部 (Faculty), 試験区分 (Exam Division), 募集人員 (Recruitment), 試験日 (Exam Date), 志願者数 (Applicants), 合格者数 (Admitted). Rows include 医学部 (Faculty of Medicine), 歯学部 (Faculty of Dentistry), 薬学部 (Faculty of Pharmacy), and 保健医療学部 (Faculty of Health and Medical Sciences).

※昭和大学特待制度合格者…初年度の授業料免除(医・歯学部:300万円、薬学部:140万円、保健医療学部:105万円)

平成31年度一般入試がスタート 新たな併願入試制度始まる

平成31年度一般選抜入学試験Ⅰ期・大学入試センター試験利用入試が、1月24日(歯学部・薬学部・保健医療学部)、25日(医学部Ⅰ期)の両日、東京・大阪・福岡の3試験場で行われた。今年度からは医学部選抜Ⅰ期を受験することで、歯・薬学部の合否判定が可能となる併願入試が実施された。



学校法人 昭和大学
発行人 小口勝司
電話 (3784) 8000 千142-8555
東京都品川区旗の台1の5の8
1部 50円 毎月1回発行

- 3月号の内容
1面 平成31年度一般入試がスタート
2面 定年を迎える教授の特別寄稿
3面 定年を迎える教授の特別寄稿
4面 私立大学研究ブランディング事業研究成果報告会...

【問合せ先】
本紙について: 総務課出版・フォト係
03-3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

医学部

一般入試で志願者が増加 競争率46倍の難関
医学部の一般入試(選抜Ⅰ期)は1月25日に一次試験が行われました。志願者数は昨年よりも増加して3566人で競争率は46倍でした。



今年度の入試は昨年来の文部科学省からの指摘を受けた多くの大学で志願者が減った中で、本学の姿勢が支持されたものと考えています。(医学部長・小川良雄)

歯学部

昨年度に引き続き 志願者が増加
歯学部の一般選抜入試Ⅰ期が1月24日に実施され、今年度の志願者数は昨年度から49名増えて529名になりました。

併願入試(B方式)地域別選抜)では15名増加の23名となり、いずれも志願者数が増加しました。さらに、今年度から実施された医学部一般選抜Ⅰ期利用併願入試では、106名と予想を上回る志願者数となりました。

薬学部

一般入試 センター入試全体で 志願者が増加
選抜Ⅰ期は1月24日に行われ、798人が出願し、特待生合格者95人、補欠合格者123人が発表されました。



昨今、歯学部の志願者獲得が厳しい中で志願者数増加は、教職員の皆様の日々の広報活動の成果が実を結んだ結果となり、ご協力いただきました教職員の皆様に感謝申し上げます。(薬学部長・中村明弘)

医学研究賞・学会等助成金授与式

前後期で昭和大学医師会が11人を選出

昭和大学医師会が主催する医学研究賞・学会等助成金授与式が昨年6月と12月に昭和大学病院で執り行われ、医学研究賞3人、学会等助成金8人の計11人が選ばれた。これは昭和大学医師会員を対象に、臨床・社会医学分野において優れた原著論文を発表した筆頭者者を表彰するとともに、昭和大学が主管する学会・研究会などの開催費用の一部を助成金として交付するもの。

Table of award recipients for the first period (前期). Columns: 氏名 (Name), 所属 (Affiliation), 研究内容・学会等名称 (Research Content/Association Name).

Table of award recipients for the second period (後期). Columns: 氏名 (Name), 所属 (Affiliation), 研究内容・学会等名称 (Research Content/Association Name).

保健医療学部 理学療法学科で 志願者が増加
保健医療学部の選抜Ⅰ期入試は、1月24日にTOCメッセを会場として行われました。志願者は、看護学科286名、理学療法学科103名、作業療法学科28名でした。今年度から理学療法学科志願者の選抜Ⅰ期は1月24日に行われ、798人が出願し、特待生合格者95人、補欠合格者123人が発表されました。

定年を迎える教授の

特別寄稿

定年退職に際して



宮崎 隆

歯学部 歯科保存学講座
歯科理工学部門

昭和59年4月に奉職して以来、35年間の長きにわたり昭和大学で大過なく勤め上げることができました。これも、直属の恩師である(故)宮治俊幸先生ほか、多くの先輩、同僚、後輩に恵

まれたためであり、ご指導とご厚情に対し心より感謝申し上げます。

この35年間を振り返ると、昭和の最後から平成にかけてバブルがあり、バブル崩壊後は我が国の人口構成が急速に少子高齢化に進む中で、国の医療制度や医師・歯科医師養成を取り巻く環境が激変しました。

恩師宮治教授は日本の歯科理工学の創設者といえる厳真先生の愛弟子でした。「自分は歯理工学を引き継いでいくが君は歯理工学を立ち上げるように」と鼓舞してくれました。本歯学部1期生の玉置、藤島、稲用先

生を筆頭に多くの卒業生と一緒に研究に汗を流し、他の大学にない新しい研究を進めてきました。昭和の歯科理工学は、新素材と先端加工技術の歯科応用に関して日本をリードしてきたと自負しています。

歯科理工学の進歩が歯科医療を支え、かつ変えてきた歴史があります。歯科理工学の教育は、学生が将来医療現場で、材料・機器を正しく使用し、新しい材料・技術の適正な導入を判断するために重要です。私は教育に関しても全国各地にも負けない濃い内容の授業をしてきました。35年間で何が楽しかったかと問われると、最後まで学生に楽しい講義ができたことと言えます。

最後に昭和大学のますますのご発展をお祈り申し上げます。

心臓病の子どもたちのサポーターとして



富田 英

医学部 小児科学講座
小児循環器内科学部門
(昭和大学病院小児循環器・成人先天性心疾患センター)

1979年に札幌医科大学を卒業し3年間の小児科研修の後、医師としてのすべての期間を心臓病の子供たちと過ごして来ました。国立循環器病研究センター、札幌医科大学、北海道立小児総合保健センターなどで、先天性心疾患に関する臨床

・研究、とりわけ新しいカテーテル治療の開発・教育・研究にあたった後、縁あって2007年5月、昭和大学横浜市北部病院循環器センターに赴任することとなりました。同院の小児循環器診療体制を充実するにあたっては、お声かけいただいたカリフォルニア大学サンフランシスコ校の佐野俊二教授(当時は岡山大学心臓血管外科)、循環器センター長の上村茂先生を始めとする循環器センターのスタッフ、こどもセンターの梅田陽先生、曾我恭司准教授を始めとするこどもセンター循環器グループの皆さま、麻酔科、手術室、ICU、心臓血管造影室など、関係部署のスタッフには一方ならぬお世話になりました。おかげさまで、北部病院の小児循環器グループは

関東圏ばかりでなく全国的に認知されるようになり、個人のにも、大学の多様なご支援とスタッフのご理解をいただきライフワークとして続けている発展途上国におけるカテーテル治療の教育活動を継続することができました。

2018年1月、小児循環器グループ全体が昭和大学病院に異動し、小児循環器・成人先天性心疾患センターを立ち上げさせていただきました。発足後まだ1年ではありますが、都内における一つの中核として認知されてきているものと思えます。まだまだ発展途上ですので、定年後もいましばらく当センターの充実に務めさせていただきますことになり、今後とも、関係各位のご指導とご支援をお願いいたします。

定年退職に際して



柴田 孝則

医学部
内科学講座 腎臓内科学部門
(昭和大学病院 腎臓内科)

昭和大学医学部を1979年に卒業し、第一内科学教室(当時)に入局、内科医としての第一歩を踏み出した。

口唇口蓋裂治療の追求



大久保文雄

医学部 形成外科講座
(藤が丘病院 形成外科)

1980年(昭和55年)に昭和大学を卒業し、形成外科学教室に入局しました。

日本鋼管病院での整形外科研修を皮切りに、虎の門病院での麻酔科、国立長野病院での整形外科、埼玉医科大学での形成外科、国立医療センターでの耳鼻咽喉科と目まぐるしい移動を繰り返したのち、昭和大学での形成外科研修、博士論文執筆、形成外科専門医試験をクリアしました。その後はニュージージーランドのミドルモア病院形成外科での研修を経て、愛知県にある西尾市民病院の形成外科部長となりました。

ました。内科学の臨床を学ぶなかで、腎炎の免疫病理学に惹かれて研究を始め、学位取得後にスイスのジュネーブ大学医学部病理学教室に3年半にわたり留学する機会を頂きました。その間、自己免疫病の発症と進展機序の研究に従事したことが、その後の私の研究活動の基盤となりました。留学中の1988年に腎臓内科が診療科として分離、設立されたことから、1989年に帰国後は腎臓内科に属し、腎臓内科学全般の臨床・教育・研究の道を歩むことになりました。

2008年、内科学講座の大講座制への再編に伴い、当科は内科学講座の腎臓内科学部門として新たにスタートしました。以来10年、腎臓内科の関係するあらゆる領域において、診療、教育、研究活動が一層活発化しています。このような時に腎臓内科学部門教授の定年退職を迎えることができるとも、これまで多くの皆様にご指導いただいたお蔭と心より感謝申し上げます。最後に、これからの本学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

定年退職に際して



小坂 誠

医学部 麻酔学講座
(昭和大学横浜市北部病院 麻酔科)

私は、1979年川崎医科大学を卒業して岡山大学麻酔科へ入局し、2003年10月に前教授世良田先生

の要請で横浜市北部病院へ出向しました。この頃、関東の先生方の雑談で「君は何線? JR? 地下鉄?」を聞き、地域の話を「都会には鉄道ファンが多いな」と思い、地下鉄の運転席からの眺めだけが続く珍しいT V番組に、妙に納得したので覚えています。

昭和大学に感謝

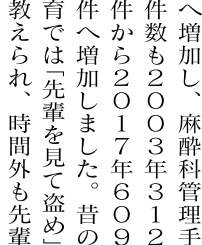


平野 勉

医学部 内科学講座
糖尿病・代謝・内分泌内科学部門
(昭和大学病院附属東病院 糖尿病・代謝・内分泌内科)

私は関連病院への出張や海外留学の期間を含めると40年近くの長きにわたり

定年退職に際して



内田 英二

昭和大学研究推進室

私は1980年(昭和55年)に医学部(第48回生)を卒業しました。臨床医を目指していましたが、学位取得のために大学院に進学し、上條一也先生の教室(医学部第二薬理学教室)にお世話になりました。

大学院2年生の夏に上條教授からお呼びがかかり、「内田、アメリカに行け」と言われ、その年の11月にペンシルヴァニア大学薬学部薬理学講座にポスドクフェローとして2年間留学しました。日本の学位取得のための研究(主論文、副論文)は全て米国での仕事になりました。留学中に上條先生が突然お亡くなりになり、安原一先生が後継がれたため、少しか

後は昭和大学が中心になって保険適応取得を目指していきます。

その他に、教育ではOCSEの責任者をさせていただき、病院においては糖尿病、脂質異常の患者さんを数多く診察し、医師として貴重な体験をさせていただきました。これを礎にさらに優れた臨床医になれるように努力いたします。

定年退職に際して



内田 英二

感謝

私も手伝いできればと帰国後に助手として採用していただきました。

安原先生は臨床薬理学がご専門であったため私も動物からヒトの薬理学に転向し、臨床薬理学分野で研鑽を積ませていただきました。1989年から1年半ほど日本臨床薬理学会海外研修員として、オランダ国ライデン大学病院のCentre for Human Drug Research (CHDR)でヒトを対象とした臨床試験を複数実施しました(プロトコル作成・倫理委員会承認取得・実施・解析・報告書作成)。CHDRとは現在も交流が続いています。学会では理事を9年間務め、2013年には第34回日本臨床薬理学会学術総会を東京の国際フォーラムで開催させていただきました。

内外の多くの人に恵まれて悔いのない大学生活だったと思いますが、それも上條先生の一言から始まったことを考えると、いくら感謝してもしきれません。どうもありがとうございました。

定年を迎える教授の

特別寄稿

定年退職にあたって



岡本 健一郎

医学部
内科学講座緩和医療学部門
(昭和大学横浜市北部病院緩和医療科)

医療をやってみないかとお誘いを受けました。2007年に北部病院麻酔科に移籍しましたが、当初は緩和ケア病棟や外来を一人でやる羽目になりました。紆余曲折がありながら、2010年に緩和医療科を立ち上げて頂き、教授に推薦して頂きました。

現在は緩和医療科医師が6人にまで増え、麻酔科、産婦人科、呼吸器内科、精神科などの出身者で幅広い視点から、緩和ケア病棟の運営管理だけではなく、緩和医療を行えるようになっています。

今でも大学に付属する緩和ケア病棟は全国で7施設しかなく、幸いにも昭和大学では早くから緩和医療の充実が図られ、昭和大学病院では2002年から緩和ケアセンターが、2018年からは昭和大学横浜市北部病院にも緩和ケアセンター

Iができました。昭和大学全体の緩和医療のさらなる充実を目指し、緩和ケア病棟を効率よく利用してもらえよう、今後は昭和大学病院において微力ながら尽力していきたいと思えます。

定年退職に際して



後閑 武彦

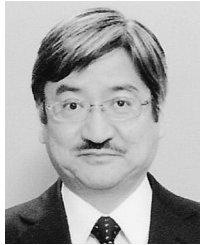
医学部 放射線医学講座
放射線医学部門
(昭和大学病院 放射線科)

多くの病院に導入され、CT・MRIとも日常臨床に必須の診療機器となりました。さらにIVRが腫瘍・救急・循環器・脳神経など様々な領域に広まり、今もお発展を続けています。核医学においてはPETが悪性腫瘍などの診療に大きなインパクトを与え、今後も分子イメージングとして重要な検査になると考えられています。また、PACSの開発により画像診断は時間的及び空間的な広がりを与えられました。例えば、日本の施設で撮影されたCTを直ちに米国で診断することや莫大な量の画像データをサーバー内に保存する事が可能となりました。

私の専門である放射線診断学だけでも多くの進歩があり、このような時期に約40年放射線科医として働き、特に後半の14年間は教授として、その発展の中に身をかけた事は大変光栄な事であつたと感じています。

昭和大学職員の皆様には長い間大変お世話になり、感謝の念に堪えません。昭和大学の益々の発展を心より祈念いたします。

病理診断を究める



九島 巳樹

医学部 臨床病理診断学講座
(昭和大学江東豊洲病院 臨床病理診断科)

1979年に医学部を卒業後、昭和大学大学院に入学し、第二病理学教室で人体病理とくに骨髄の病理について

昭和大学での8年



加賀美 芳和

医学部 放射線医学講座
放射線治療学部門
(昭和大学病院 放射線治療科)

私は、大学病院に放射線治療科が設けられた際にお

ついて剖検(病理解剖)を中心に研究を進め、未脱灰標本による骨髄組織の形態学的計量的研究で学位を取得しました。大学院修了後は産婦人科領域の病理と細胞診を専門にしようと考えました。病理診断業務の中で、細胞診・組織診の検体に占める婦人科領域の検体の割合は多く、学会活動を進めるうちに日本病理学会、日本臨床細胞学会に関係した全国の病理医の協力を得て、日本婦人科病理学会の設立に関わった事(一昨年末まで4年間は理事長)は、病理学教室をはじめとする昭和

大学の皆様のお力添えによるものと感謝しています。旗の台の病理学教室では医学部の大学院生に対して組織診・細胞診に関するテーマを中心とした学位論文指導を行ないました。また、昭和50年代後半より薬学部から毎年、学部学生の卒業研究を受け入れ、剖検、病理診断業務に関係した研究テーマについてともに学ぶことができました。

診療面では、平成9年より基礎校舎(1号館)から昭和大学病院に重点を移して、病理学者から病理医へ転換しました。病院病理科の一

接委員として5年間入試にも関わりました。さらに、大学病院がん診療運営委員会委員長として全国がん登録の実態にも少し触れることができました。放射線治療の項の登録方法の矛盾に気が付き、元締めの国立がん研究センターがん登録センター長にその旨話したことが改定のきっかけになりました。

皆さまにご協力いただき放射線治療の体制も整備していただきました。放射線医学講座に放射線治療学部門の設立、各病院でも放射線治療科の設置および診療科長の配置、新規治療器の導入、医学物理士の採用、大学病院での新放射線治療棟建設等々、今後さらに発展し多くの患者さんにレベルの高い医療を提供する素地は作られました。

倉田 なおみ



薬学部 社会健康薬学講座
社会薬学部門

大学入学47年後の卒業にあたって

Iト部に打ち込んだ学生生活の後、大学病院薬剤部20年、藤が丘リハビリテーション病院薬局10年、薬学部教員13年を経て、この度、昭和大学を卒業することになりました。

大学病院では1日1000枚の外來処方箋調剤に追われながら、病棟業務にて患者さんから多くのことを学びました。恐ろしさを知らない時期であり、手書きの薬袋、処方箋をなくすために医事入力を利用した出力システムを1から構築し

ましたが、今になって無事運用できたことに安堵しております。

リハビリ病院では薬局長として全病棟へ薬剤師を配置、「薬が体に入るまでを確認すること」を一言で表すために今では当たり前と言われている「服薬支援」という言葉を考えて使い始めました。

その後薬学部にて赴任し学生教育のみならず、学内機能評価にて全病院の質向上に携わることができました。また、木内祐二先生のも

とで学部連携のPBLチュートリアル、病棟実習、地域医療実習の構築にも関わらせていただき、他学部の先生方と連携できたことも私の財産です。

47年間の昭和大学生活は、時々の異なる目標に追われているうちに過ぎてしまいました。その間にお世話になった方は数え切れず、その皆様のおかげで卒業の日を迎えることができました。

私は立場を変えてもう少し昭和大学にお世話になりますが、同じく8年間通常の2倍以上の働きをして私以上に消耗しているリニアックはまだ後継者が決まらず、リタイアさせてあげられな

かったことは心残りです。

昭和大学 上條記念館
グランドオープン記念公演
〈みんなのコンサート〉
2019年5月26日(日) 午後1時30分開演
会場: 上條ホール
料金: 2500円(全席自由)
出演: 坂爪いちお、宮山淳子、阿川建一郎、横山美千子、阿川真理子(ピアノ伴奏)

(2019年4月竣工予定)
グランドオープン記念公演シリーズの公演内容・日程は随時更新中!
チケット購入方法・お問合せ先: 上條記念館開館準備担当
TEL 03-3784-8030 Mail kinenkan@ofc.showa-u.ac.jp

90th SHOWA University 至誠一貫 1928

医学堂書店

ふるさと納税 富士古田の天然水
カタログ景品手配
国内海外出張手配
公的研究費請求手続き 航空券・宿泊ホテル手配
医師陪自動車保険
ネクタイポロシャツ
昭和大学 オリジナルグッズ販売
03-3784-8280
品川区 旗の台 電話(03) 3783-9774
各種PARTY親睦会等 イベント運営補助 会場手配・招待状・出席席、会費管理



歯学部(2月22日開催)



薬学部(1月23日開催)



保健医療学部(1月18日開催)

白衣授与式開催
歯学部・薬学部・保健医療学部の白衣授与式が執り行われ、学生らは校章入りの真新しい白衣に袖を通し、4月から始まる臨床実習を前に、いっそう気を引き締めた。式典後は駆けつけた上級生が新たな門出を祝福する姿が見られた。

2月23日、平成30年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究報告会・シンポジウムが旗の台キャンパスで開催され、多数の参加者が出席した。昭和大学は平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」で「医系総合大学の実績を基盤とした生体内レドックス制御機構解明と臨床応用—健康長寿に貢献する大学創成—」の事業が採択され、今回は2回目の研究成果報告会となった。

同報告会・シンポジウムは、始めに東北大学大学院薬学研究科(生体防御薬学分野)の齋藤芳郎教授による、「生体内レドックス制御因子セレンプロテインPの機能と疾患」の特別講演が行われた。

私立大学研究ブランディング事業 研究成果報告会・シンポジウムを開催

その後、研究代表者による研究概要の説明とポスター発表が6班28演題に分かれて行われ、多くの参加者がポスターに目を通しながら研究者からの解説を受ける姿が見られた。最後は外部評価者4名による講評が行われ、昨年と同様に良好な評価が得られた。



研究者らによるポスター発表

2018年昭和大学は創立90周年を迎えました

記念式典・祝賀会を来年(2019年)に挙行!

開催日:2019年11月10日(日)

◎記念式典
会場:昭和大学上條記念館
記念講演の実施
式典の前には 昭和大学上條メモリアル合唱団「第九」合唱、講堂緞帳披露会等を予定

◎記念祝賀会
会場:グランドプリンスホテル新高輪 飛天
昭和大学上條メモリアル合唱団「ハレルヤ」合唱 MAS、応援指導部による祝宴等を予定

創立90周年記念事業(上條記念館建設事業)募金へご協力いただいた方は式典・祝賀会に招待いたします。

創立90周年記念事業の詳細については「昭和大学創立90周年記念特設サイト」をご覧ください。
URL: <https://90th-showa.jp/>

続報は随時!

<h2>就任のお知らせ</h2> <p>(2月12日 理事会承認)</p>	<p>医学部放射線医学(放射線治療学部門)担当 教授 昭和大学病院放射線治療科診療科長 (勤務地: 昭和大学病院放射線治療科)</p> <p>伊藤 芳紀</p> <p>現: 医学部放射線医学(放射線治療学部門)担当 准教授(講師定員内)</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>
<p>医学部臨床病理診断学担当 教授(員外) (勤務地: 藤が丘病院臨床病理診断科)</p> <p>大池 信之</p> <p>現: 医学部臨床病理診断学担当 准教授</p> <p>任命日: 2019年2月12日</p>	<p>横浜市北部病院メンタルケアセンターセンター長</p> <p>稲本 淳子</p> <p>現: 医学部精神医学担当 教授 (勤務地: 横浜市北部病院メンタルケアセンター(精神神経科))</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>
<p>歯科病院 病院長</p> <p>馬場 一美</p> <p>現: 歯学部歯科補綴学担当 教授</p> <p>任期: 2019年4月1日~2022年3月31日</p>	<p>薬学部社会健康薬学(社会薬学部門)担当 教授(員外)</p> <p>岸本 桂子</p> <p>現: 薬学部社会健康薬学(社会薬学部門)担当 准教授</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>
<p>薬学部臨床薬学(感染制御薬学部門)担当 教授(員外)</p> <p>石野 敬子</p> <p>現: 薬学部臨床薬学(感染制御薬学部門)担当 准教授</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>	<p>薬学部臨床薬学(がんゲノム医療薬学部門)担当 教授(員外)</p> <p>藤田 健一</p> <p>現: 薬学部基礎薬学(腫瘍細胞生物学部門)担当 教授(員外)</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>
<p>富士吉田教育部 教育部長</p> <p>倉田 知光</p> <p>現: 富士吉田教育部担当 教授</p> <p>任命日: 2019年4月1日</p>	<p>国際消化器内視鏡研修センターセンター長(再任)</p> <p>工藤 進英</p> <p>現: 国際消化器内視鏡研修センター センター長</p> <p>任期: 2019年4月1日~2021年3月31日</p>
<p>口腔ケアセンター センター長(再任)</p> <p>弘中 祥司</p> <p>現: 口腔ケアセンター センター長</p> <p>任期: 2019年4月1日~2021年3月31日</p>	<p>口唇口蓋裂センター センター長(再任)</p> <p>大久保 文雄</p> <p>現: 口唇口蓋裂センター センター長</p> <p>任期: 2019年4月1日~2021年3月31日</p>
<p>国際交流センター センター長(再任) キャリア支援室 室長(再任)</p> <p>宮崎 隆</p> <p>現: 国際交流センター センター長 キャリア支援室 室長</p> <p>任期: 2019年4月1日~2021年3月31日</p>	<p>統括保険診療管理室 室長(再任)</p> <p>澁澤 三喜</p> <p>現: 統括保険診療管理室 室長</p> <p>任期: 2019年4月1日~2021年3月31日</p>
<p>特任教授(継続) 任期: 2019年4月1日~2020年3月31日</p> <p>高橋 寛 加藤 進昌</p>	

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方々
(平成31年1月1日~1月31日ご入金分・奨学寄付金への寄付は除く)

教育研究への寄付
[同窓] 長 南薫 様(医学部・23回生)

医療施設への寄付
[同窓] 西澤 滋 様(薬学部・23回生)

創立90周年記念事業への寄付(上條記念館建設)
目標寄付金額: 10億円
累計寄付金額: 686,053,516円(平成31年1月31日現在)
※上條記念館建設事業へ累計100万円以上のご寄付をされた方は上條講堂(新)座席へ芳名プレートを設置し、顕彰させていただきます。(申込状況は下図参照)

[父母] 田村 功一 様 / 清水 喜徳 様
[同窓] 貫井 和子 様(薬学部・5回生) / 貫井 希実子 様(薬学部・30回生)
高 倫浩 様(医学部・73回生)
馬淵 あずさ 様(歯学部・10回生) / 大幡 久之 様(薬学部・10回生)
中西 孝子 様(薬学部・14回生)
医療法人秋田会 理事長 秋田 清実 様(医学部・47回生)
唐川 亜希子 様(歯学部・23回生) / 豊田 國彦 様(医学部・39回生)
西本 幸正 様(医学部・26回生)

[職員] 佐々木 晶子 様 / 山森 博之 様 / 昭月会 様
[一般] 株式会社 信幸保険事務所 様

【備考】※申込順となっております。
※名前の公表を希望されない方については、掲載しておりません。
※申込時に同窓欄へ記載があった方につきましては、名前の後に学部と卒業回生を掲載しております(職員は除く)。

上條記念館建設事業 上條ホール
イス芳名プレート席数

既申込数 260席 (分割支払い中を含む)
対象席数 406席
平成31年1月31日時点

※黒塗り部分が既申込席となります。
※本事業への寄付が100万円以上の方が対象
※前方2列(31席)および車いす席(10席)はプレート設置対象外です。
(図)上條記念館内上條ホール1階